

【SV2 用電気工事資料】

以下に工事内容をまとめましたので、この用紙を電気工事業者の方にお見せして手配を進めてください。

※電気工事は有料です。

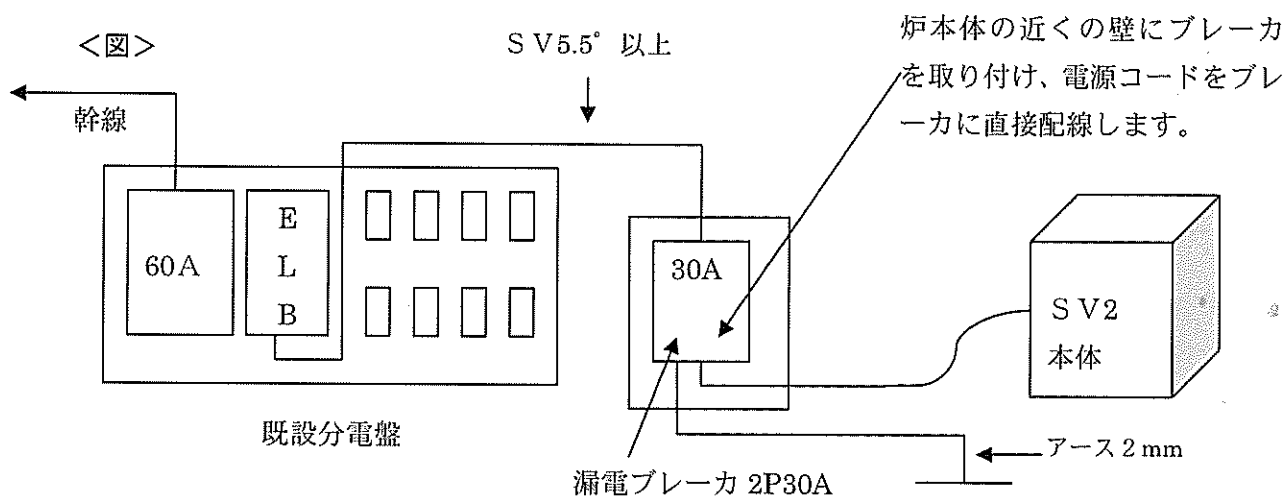
★ 電気工事業者の方へ ★

電気炉機種名 SV-2 型 (単相 200V. 5.0KW 25A.)

既存のブレーカを60Aに換えます。(この変更は最寄の電力会社で無料で変わります。)

注意！マンションなどの集合住宅や、古い自宅の場合は幹線の工事が必要であったり、60Aのブレーカを取り付ける事が不可能な場合があります。管理会社や、電気工事業者に確認をしてください。幹線の交換工事は有料となります。

下記の図に従って配線工事をしてください。



！注意！

- ① 電気炉は電力の使用量が最大負荷時でも供給電力が炉の規定電圧になるように工事する必要があるため、使用する電線は下記に表を元に工事を行なってください。
- ② 漏電ブレーカーを取りつける際は定格感度電流値が 100mA 以上のものを配線してください (お客様の使用状況により 30mA のものでは過敏に反応する恐れがあります)。
- ③ 電線と端子を接続する際は必ず圧着端子を使用し完全に締め付けてください。(漏電ブレーカー、スイッチ等の接続に緩みがあり、温度が上がらないという事例が多数あります)
- ④ マンション等の集合住宅や、古い自宅の場合は幹線の工事が必要であったり、主開閉器契約が不可能な場合があります。管理会社や、電気工事業者に確認をして下さい。


<電気炉の配線基準>

炉の電気容量	5.0KW
電源	単相 200V
配線(太さ)	SV5.5~8°
アース線	2mm
漏電ブレーカー	30A
定格感度電流値	(200mA)
炉の全電流	25A

2 設置

1 設置

1 電源工事について

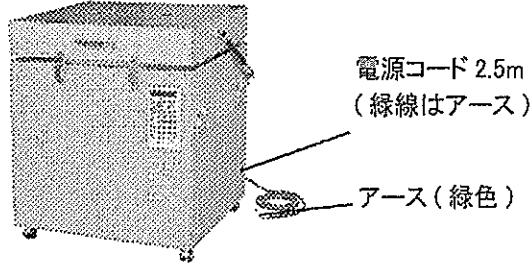
 危険 電気工事は専門の業者に依頼する。

1. 電源への接続

電気配線工事業者の方へ

窯の仕様および設置場所の状況を考慮し、法規・規定にそった施工をしてください。

漏電ブレーカー（メインスイッチ）を壁に取り付け、接続してください。



《漏電感度電流について》

- ①感度電流が 200mA の高速型漏電遮断器 (100/200/500 切替型) を使用してください。
- ② 200mA の漏電遮断器を使用する場合は、接地抵抗が 250Ω (水気のある場所などは 125Ω) 以下であることを確認してください。[内線規定 1375-2]

《アースについて》

- ①レンガは吸湿性があるため、試運転（乾燥運転）する必要があります。その際、漏電の可能性があるので、必ず接地を浮かせることのできる施工をしてください。

《参考》ブレーカサイズ・配線サイズ表

機種	容量 kW	電源	電圧 V	負荷電流 A	漏電遮断器		配線サイズ	
					定格容量 AT	感度 mA	ケーブルころがし 配線の場合	配管配線の場合 ()内は配管サイズ
SV-2	5.0	単相	200	25	30	200	SV5.5 [□] -2C,E1.6 [□]	IV5.5 [□] -2C,E1.6 [□] (19)

※設置場所の状況や施工方法によって、ブレーカサイズや電線の許容電流量は変わります。

2 設置

1. 据付

(1) 屋内の場合

①風通しを良く。

焼成中は炉内が高温になり、レンガ、作品からの臭いが発生します。換気扇を設置し、換気を十分に行なってください。

②周辺には物を置かない。

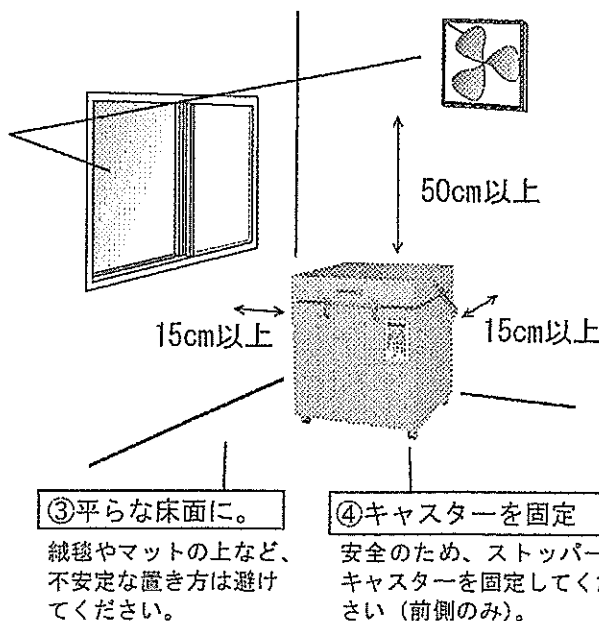
安全のため、壁から 15cm 以上離してください。また、窯の周囲 50cm 以内に燃えやすい物を置かないでください。


③平らな床面に。

絨毯やマットの上など、不安定な置き方は避けてください。

④キャスターを固定


安全のため、ストッパーでキャスターを固定してください（前側のみ）。




 危険

換気できる場所に設置する。
焼成時は換気が必要です。十分に換気を行える場所に設置してください。

タコ足配線をしない。
延長コードを使用しない。

 警告

雨水・水のかかる場所、湿気の高い場所に設置しない。
火災報知器・スプリンクラーの真下に設置しない。

 注意

直射日光の当たる場所に設置しない。

(2) 屋外の場合

雨水がかからない、湿気の無い場所で、床面がしっかりしている水平な所に設置してください。